

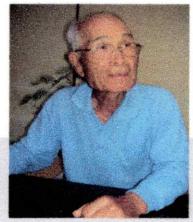
◎平出水への疎開
園田時治さんの巻
日高 守さんの巻

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行

園田時治さん



日高 守さん



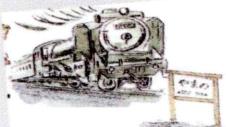
集落支援員だより

大口平出水への学童疎開を語る

戦時中から終戦へ。75年前、少年だった二人の学童疎開はどのような状況だったのでしょうか？

わたしの叔母の話によると、疎開に行く日は涙涙の別れだったと聞いているのですが…

○自分たちはまだ小学3年生やったかもしれんばってんか遠足に行く気分でうれしかったろなー。（別れに）親んしが来てくれたかもしれんばって、覚えとらん。



平出水に着いてからのことですが、受け入れ家族はどうやって決まったのですか？

○その場で誰々はこの家ちゅうて、5・6年生から二人ずつ「こけ一行け」ちゅうぐあいに決まったな。（年長は）もねーないから。どまあ、こまんかしばっかいで三人残ったとや。

平出水小学校でのようすは？

○勉強なんだーさらーっとや。途中で兵隊が学校に来て教室に行ったもんで、おいなんだー学校のそばの丘にむしろを敷いてなあ。雨の日なんだー神社で授業や。



○いつやったかなー。学校にやー兵隊がおいからやろうーなー。そいをねろーて、米軍から機銃掃射を受けたろー。カボチャの棚があつてなー、おいはそん下あ隠れたろ。

○算数の試験があったとや。向こうんし（=平出水の地元の子たち）に負けちゃあならんちゅうて、教室でおい一人が百点とったいば、家で白飯が出たろ。

○4年生のおいは兄貴と二人やつたから、さびしか感じはなかったな。親も悲しか顔はしとらんにやつた。ばあさんが泣いてなあ。泣いて見送ったこた一覚えとい。



○おいは兄貴と二人で、手をつないで待つとつたいば、当時18歳やつたかな、そん人が来て「私がこの子たちを預かっていこう」ちゅうて、三人で手をつないで歩いて行ったわけや。

終戦後の集団生活のようすは？

○集団生活してからが難儀やつたとや。朝飯はあったばって、米ん飯ちゅうよつか、大豆を煮て、デンプンを入れてな。おいはデンプンが好かんじーなー。



○学校に兵隊さんが駐留しとったわけや。なにしろ腹が減ったときーにやーチリ捨て場一行つて、兵隊さんがふつせとつた乾パンとか金平糖を拾ーて食つたとや。



○下ん田んぼに8月やからバッタがバーンパン飛ーできるきおいとや。とつて、田のくりい火を焚ーて、串い刺ーて、焼ーて、そいを食つたとや。食つもんがなかつたからなー。

それから75年。冷蔵庫を開けて食材に目を通し、今晚はどんな料理にするか考える。トイレには温水シャワーと柔らかいトイレットペーパーがあり、快適な時間を味わえる。苦しい集団生活でしたが、園田さんは元受け入れ家族の方から学校帰りに声をかけられ、おにぎりをもらつたそうです。日高さんはあまりのひもじさで近所の甘柿をとつて食つたところ、それが地主にばれて「そんなに腹が減つていたなら、メシ食いに來い」と諭され、ご飯をいただいたと話されました。次も疎開を経験された方を紹介します。